



2022年9月中旬、梶

山女学園大学現代マネジメント学部の学生が、沖縄県読谷村で「明るいダークツーリズム」をテーマに現地調査を行った。ダークツーリズムとは、戦争や災害の遺構を観光資源として活用するもので、アウシュビッツ強制収容所や広島市の平和記念公園・平和記念資料館・原爆ドームのように年間数百万人が訪れる場所もある。

日本では、ダークツーリズムが、積極的に活用されているとは言いがたい。理由は、①イメージが暗く、集

沖縄県読谷村で「明るいダークツーリズム」

経済波及効果が大きくないためである。また、観光客にとっても、戦争や災害の被害に遭った場所を観光目的で訪れることへの戸惑いがある。そのためダークツーリズムは、修学旅行等の教育旅行として実施されることが多い。

戦争や災害という暗いテーマだけでは行きたくないが、他のテーマと組み合わせることで訪問者を増やすのが「明るいダークツーリズム」の提案である。悲惨な戦争を「明るい」と表現

することに批判もあるが、「ダークツーリズム」という言葉の暗さへの対比的な意味で「明るいダークツーリズム」という名称を考えた。同様の言い換えは、広島市の「ピースツーリス

ム」や福島県の「ホープツーリズム」がある。教育旅行では、平和学習と呼ばれている。

読谷村は、沖縄戦でアメリカ軍が最初に上陸した地であり、住民が避難したチビチリガマとシムクガマがある。チビチリガマでは、集団自決という悲劇、シムクガマでは、投降して生き残った。生死を分けることになったのは、アメリカ軍に関する正しい情報であった。この正しい情報の大切

「案内板のない観光地」 着地型観光での活用

客につながる、②悲し

みの記憶で地元の当事者が触れたくない、③観光客がお金を使う場所が少なく、



梶山女学園大学現代マネジメント学部准教授 水野 英雄

みずのひでお 国際経済学、貿易政策、経済教育。名古屋大学大学院経済学研究科博士課程後期課程退学。

さというエピソードは、SNS等の情報が氾濫する現代社会にも通じるものがあり、平和学習だけでなく、より幅広い学習につながる貴重なものである。

チビチリガマは、平和学習と呼ばれている。読谷村は、沖縄戦でアメリカ軍が最初に上陸した地であり、住民が避難したチビチリガマとシムクガマがある。チビチリガマでは、集団自決という悲劇、シムクガマでは、投降して生き残った。生死を分けることになったのは、アメリカ軍に関する正しい情報であった。この正しい情報の大切

戦後77年が経過し、ダークツーリズムの遺構の風化も進んでいる。戦争経験者も年々少なくなっていく。ダークツーリズムだけでは、採算性が悪いが「明るいダークツーリズム」により、地域全体の観光収入を増加させ、その収益の一部をダークツーリズムのために施設の維持管理に充てることで、戦争の遺構を次の世代に引き継いでいくことが、必要である。

読谷村では、平和学習と呼ばれている。読谷村では、教育旅行向けに地元との交流のための民泊が行われている。